

横浜国立大学に眠る「王室のピアノ」、今、再びよみがえる



横浜国大には、生誕100年を超える1923年製の素晴らしいピアノ(ベヒシュタインE型グランドピアノ)があります。その透明な響きと音色の変化が多彩で、弾き手により様々な表情を示してくれる特性から、多くの作曲家や演奏家に賞賛、愛用され、日本を始め世界中の王室に納入されたことで「王室のピアノ」と称されました。

数年前の大修復を経て後、殆ど演奏されていませんでしたが、100周年記念イベントの「ベヒシュタイン演奏会」で復活します。

望みうる最高のアーティストをお招きすることができました

日本ピアノ界のレジェンド安川加壽子の高弟にして、フランス音楽に関する造詣が深く、ドビュッシーの音楽を演奏技法を始め、やさしく分かりやすく解説。しかも、目前でその美しい音、美しい音楽を実演して見せて頂ける、青柳いづみこさんは最高のアーティストです。

ピアノを研鑽中の方も、そうでない方も、ドビュッシーの音楽の魅力に触れ、楽しさを知る稀少な機会です。是非、横浜国大にお越しください。



©Miho KAKUTA

青柳いづみこ(ピアニスト・文筆家)

安川加壽子、ピエール・バルビゼの両氏に師事。フランス国立マルセイユ音楽院首席卒業。東京芸術大学大学院博士課程修了。学術博士。平成2年度文化庁芸術祭賞。演奏と文筆を兼ね、著作35点、CD25点。師安川加壽子の評伝『翼のはえた指』で吉田秀和賞、祖父の評伝『青柳瑞穂の生涯』で日本エッセイストクラブ賞、ミステリー・エッセイ『6本指のゴルトベルク』で講談社エッセイ賞、CD『ロマンティック・ドビュッシー』でミュージックペンクラブ音楽賞受賞。2023年には、高橋悠治との『シューベルトの手紙』(ALM)、『仮面のある風景 F・クーブラン作品集』(TKI)、西本夏生との『カプリス』(ALM)、2024年にはC.ジョヴァネッティとの『19歳のシューベルト』(ALM)をリリース。近刊に『パリの音楽サロン ベルエボックから狂乱の時代まで』(岩波新書)。2025年には、サティ没後100年を記念して『サティとドビュッシー どちらが先駆者だったのか?』(春秋社)とCDアルバムを刊行。日本演奏連盟、日本ショパン協会理事。大阪音楽大学名誉教授、神戸女学院大学講師。兵庫県養父市芸術監督。

<https://ondine-i.net>

アクセス:

横浜国立大学教育文化ホール 〒240-8501横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号

最寄りのバス停 岡沢町

最寄りの門 正門

横浜市営地下鉄

相鉄線(各停)

相鉄・JR直通線/相鉄・東急直通線 羽沢横浜国大駅

三ツ沢上町駅

和田町駅

正門まで徒歩約16分

南通用門まで徒歩約20分

西門まで徒歩約15分

※ できる限り公共交通機関をご利用の上お越しください。



次回告知: 2026年春

於: 横浜国立大学 教育文化ホール

室内楽(ピアノ三重奏)を予定